

TSUDOI

スタンダードプラン 月次分析レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆TOP銘柄分析ガイド

TSUDOIで集計・分析する、複数の有名格付け機関によるスコア評価

◆『狙い目：中堅銘柄』発掘ガイド

仮想通貨業界全体のトレンド銘柄分析

◆『大穴：新規銘柄』発掘ガイド

VC出資先分析に基づく、注目新規銘柄情報、CMC新規リスト銘柄分析

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#) をご覧ください。



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。



有料
レポート

2024年12月末～2025年1月末 仮想通貨業界市場動向

◆ 業界全体の時価総額 推移

2024年12月30日から2025年1月28日にかけての仮想通貨市場は、全体的に好調を維持しています。数値としては、12月30日の時価総額は約515兆円（3.31兆ドル）でしたが、1月28日には約543兆円（3.49兆ドル）を記録しています。

また、基軸通貨であるビットコイン（BTC）の価格動向は、1BTCあたり92,651.37ドルから101,256.74ドルと推移しており、**9.28%の上昇**が見られました。

右図coinglassの情報によると、2025年1月28日時点で、ビットコイン（BTC）は月間上昇率が9.28%に達しており、1月は上昇基調で終わる見込みです。**歴史的なデータを振り返ると2月は上昇傾向にあり**、特に半減期後の翌年2月末もデータ通りの推移が期待されます。



Bitcoin Monthly returns

※TokenInsight調べ

Time	January	February	March	April	May	June	July	August	September	October	November	December
2025	+8.61%											
2024	+0.62%	+43.55%	+16.81%	-14.76%	+11.07%	-6.94%	+2.95%	-8.6%	-7.29%	+10.76%	+37.29%	-2.85%
2023	+39.63%	+0.03%	+22.96%	+2.81%	-6.98%	+11.98%	-6.02%	-11.29%	+3.91%	+28.52%	+8.81%	+12.18%
2022	-16.68%	+12.21%	+5.39%	-17.3%	-15.6%	-37.28%	+16.8%	-13.88%	-3.12%	+5.56%	-16.23%	-3.99%
2021	+16.51%	+36.78%	+29.86%	-1.98%	-35.31%	-5.95%	+18.19%	+13.8%	-7.63%	+39.92%	-7.11%	-18.9%
2020	+29.95%	-8.6%	-24.92%	+34.26%	+9.51%	-3.18%	+24.03%	+2.83%	-7.51%	+27.7%	+42.95%	+46.92%
2019	-8.58%	+11.14%	+7.05%	+34.36%	+52.38%	+26.67%	-6.59%	-4.6%	-13.38%	+10.17%	-17.27%	-5.15%
2018	-25.61%	+0.47%	-32.85%	+33.43%	-18.99%	-14.62%	+20.96%	-9.27%	-5.58%	-3.83%	-36.57%	-5.15%
2017	-0.04%	+23.07%	-9.05%	+32.71%	+52.71%	+10.45%	+17.92%	+65.32%	-7.44%	+47.81%	+53.48%	+38.89%
2016	-14.83%	+20.08%	-5.35%	+7.27%	+18.78%	+27.14%	-7.67%	-7.69%	+6.04%	+14.71%	+5.42%	+30.8%
2015	-33.05%	+18.43%	-4.38%	-3.66%	-3.17%	+15.19%	+8.2%	-18.67%	+2.35%	+33.49%	+19.27%	+13.83%

※coinglass調べ

◆ ドミナンス推移

2024年12月29日から2025年1月28日までの仮想通貨市場におけるBTC、ETH、Top 50(BTCとETHを除く)、その他の通貨(Top 50以降)の市場支配率の推移を要約します。

ビットコイン（BTC）の市場支配率は、12月29日に56.69%から始まり、1月21日には今月の最高値となる**60.71%へと上昇**。また、BTCÐを除くTOP50位のアルトコインの数字は、1月8日に**17.98%へと上昇**が記録されています。

1月時点で、ETHの市場占有率は約11～13%と安定した推移を記録。**50位以降の小型アルトコインには16度の10%超流入がみられ、投資家の分散意識と新興銘柄への注目度が高まっている**と考えられます。(昨年11月は一桁台を推移)最近のアルトコインへの継続的な資金流入は、市場の注目がビットコインから分散し、いわゆるアルトシーズンへ突入する可能性を示唆しています。



日付	BTC市場割合	ETH市場割合	Top 10市場割合 BTC & ETHを除く	その他
2024-12-29	56.69%	12.35%	18.62%	12.33%
2025-1-8	52.85%	11.25%	17.92%	17.98%
2025-1-21	60.71%	11.57%	20.86%	6.87%
2025-1-28	57.42%	10.61%	19.72%	12.26%

※TokenInsight調べ

※大幅な変動がある場合、取得データの遅延や不一致がある可能性があります。

GOODマーク付き銘柄 2025年 1月集計結果

トップ銘柄 分析ガイド 1/31

一般に、BTCの価格が下がる際には、アルトコインはBTCよりも大きく値下がりすることが多いです。これはアルトコインのリスクが高いことを意味します。しかし、市場が上昇する時には、アルトコインはBTCを上回る値上がりを見せることがあります。このため、BTCが下落している時にアルトコインのパフォーマンスを月単位で評価すると、成績が悪く見えることがあります。

1月1週目~1月3週目までの週次レポートにて選定された9つのTOP銘柄の中から8つのTOP銘柄にGoodマークを付与いたしました。

※この評価は、基本的に毎週金曜日に配信される週次レポート作成時または、月次レポート作成時に、過去に配信された銘柄の価格動向を記録した情報を基に行われます。銘柄の中では、同じ銘柄が含まれていることがあります。

今月は1カ月を通して、BTC価格がおおよそ9.28%上昇しており、9つのTOP銘柄の選定を行い8銘柄にGoodマークを付与しております。結果として5銘柄が価格高騰を経験し、3銘柄がBTC価格の推移よりも高パフォーマンスを出しています。

TSUDO I分析レポート 🍷 マーク銘柄一覧

レポート 配信日付	プロジェクト	上昇率	レポート 配信日付	プロジェクト	上昇率
1/10	 <u>ChainLink</u>	30.31% 	1/17	 <u>Hedera</u>	3.05%
1/10	 <u>Aave</u>	25.08% 	1/24	 <u>Solana</u>	-4.02%
1/10	 <u>Virtuals Protocol</u>	12.13% 	1/24	 <u>ChainLink</u>	-4.69%
1/17	 <u>Sui</u>	1.17%	1/24	 <u>Aave</u>	-5.32%

『🍷』マークは、同時期のBTC価格の増減と比べ高いパフォーマンスを出していた銘柄に付与しています。

GOODマーク付き銘柄 2025年 1月集計結果

『狙い目：中堅・大穴：新規銘柄』 発掘ガイド 1/31

1月1週目～1月3週目までの週次レポートにて、9つの狙い目：中堅銘柄、7つの大穴：新規銘柄を詳細に分析しました。

※この評価は、毎週金曜日に配信される週次レポート作成時、または月次レポート作成時に、過去に配信された銘柄の価格動向を記録した情報を基に行われます。

『狙い目：中堅』に掲載した銘柄9つ、『大穴：新規銘柄』に掲載した3銘柄の中から、TSUDOIチームでは3銘柄ほど中長期的な成長の可能性があるを持つと判断し『👍』を付与しております。また、3銘柄中1銘柄が、BTC価格の推移よりも高パフォーマンスを出しております。

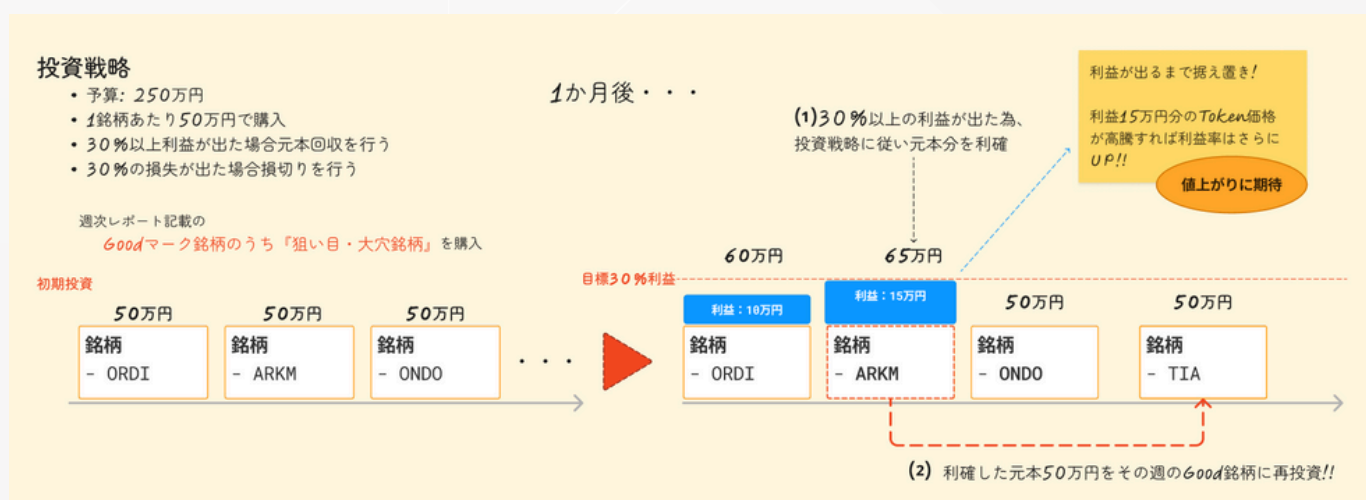
レポート 配信日付	プロジェクト	上昇率
1/10	 DeepBook Protocol	75.08% 🌟
1/17	 ai16z	-12.77%
1/17	 Arcana Network	1.01%
1/24	 Raydium	0.61%

『🌟』マークは、同時期のBTC価格の増減と比べ高いパフォーマンスを出していた銘柄に付与しています。

GOODマーク付き銘柄 有効的な投資戦略紹介

下記シミュレーションは、週次分析レポート発行日に『👍』マークを付与した狙い目銘柄、大穴銘柄を下記投資戦略に基づき50万円ずつ購入＆売却を繰り返し、決められた元本内で再投資を行うシミュレーションとなります。下記のように投資戦略上のルールを作成し投資をすることも、リスク管理と効率的な資産運用を実現する手法の一つとしてご覧ください。

投資条件の概要



※予算はご自身で設定していただき、資産を分割し5銘柄分の投資ができるよう調整していただければと思います。

2023年11月から始めた場合

投資実績：利回り 125.36%(元本を含めない利益)

- 投資期間: 2023年11月～2025年1月
 - 利益: 5,534,051.16円 (損切りによる損失: 2,400,000円)
 - 利回り: 125.36%(元本を含めない利益)
 - 利確された銘柄数: 通算23銘柄
 - 損切りされた銘柄数: 通算16銘柄
- 過去の投資銘柄
 - ORDI, Celestia, Blur, Arkham, Terra Classic, Ethereum Name Service, Xai, Manta Network, Ondo, Starknet, Manta Network, Metis, Arkham, Omni Network, Merlin Chain, BounceBit, Taiko, io.net, zkSync, Manta Network, LayerZero, FET, MANTRA, Ondo, Ondo, Aerodrome Finance, Ondo, Jupiter, Ethena, Ethereum Name Service, Worldcoin, Taiko, Raydium, Ondo, SaucerSwap, Ondo, Morpho, Origin Protocol, Virtuals Protocol, Hyperliquid, DeepBook Protocol, ai16z, Arcana Network, Raydium
- 現在元本投資中の銘柄
 - Ondo, Hyperliquid, Arcana Network, Raydium

1月週次レポート掲載 TOP銘柄 継続分析ガイド

トップ銘柄 分析ガイド 1/31

この分析ガイドでは、1月の週次レポートにて記載された価格が急上昇したTOP銘柄に焦点を当てています。それぞれの銘柄について、レポート掲載時から月末までの時価総額ランキングの推移や、複数の海外格付けサイトの情報を基にしたTSUDOI独自の評価を紹介しています。これらの通貨は、100点満点での信頼性スコアとして、下記一覧の右側に記載されています。

TSUDOI週次分析レポート掲載銘柄一覧

※2024年9月より評価方法を一部変更しており先月と数値がこととなっております。

配信日時	CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	直近30日間の値上がり率	トークン価格 (1/31現在)	スコア (1/28現在)
1/10	#14→#11	 ChainLink 	Oracles	▲23.22%	¥3,812.74	73.46(+0.09)
1/10	#31→#32	 Aave 	Lending & Borrowing	▲1.78%	¥49,369.36	71.71(+0.33)
1/10	#41→#74	 Virtuals Protocol 	AI Agent	▼47.25%	¥321.28	-
1/17	#13→#14	 Sui 	Layer1	▼0.22%	¥641.54	68.68(-0.46)
1/17	#17→#16	 Hedera 	Layer1	▲16.63%	¥48.22	67.99(-0.24)
1/17	#45→#47	 Arbitrum	Layer2	▼12.28%	¥97.95	69.49(+0.1)
1/24	#5→#5	 Solana 	Layer1	▲25.07%	¥36,726.54	75.64(+3.42)
1/24	#11→#11	 ChainLink 	Oracles	▲23.22%	¥3,812.74	73.46(+0.09)
1/24	#30→#32	 Aave 	Lending & Borrowing	▲1.78%	¥49,369.36	71.71(+0.33)

月次レポート及び、週次レポートの使い方について

今月の週次レポートにおけるGoodマークが付与されたTOP銘柄にて、これらの銘柄が、**なぜ話題を集めているかを月次及び週次レポートの考察をご覧ください、投資家の皆様がより深く理解するための分析情報として**レポートを配信させていただいております。

トップ銘柄 スコア調査ガイド

スコア調査ガイドでは、海外の様々な格付けサイトから情報を集めて、TOP銘柄を評価しています。これらの格付けサイトは、プロジェクトの進行計画と現状、トークンの経済的側面、プロジェクトチーム、ビジネスパートナーや投資家、エコシステムの成長、トークンの市場パフォーマンス、技術基盤とセキュリティ、全体的な市場での成績、技術の採用状況など、多面的な観点からの情報を提供しています。

TSUDOIのスコアは、これらのサイトから収集した情報を元に、各プロジェクトの全体的な強みとリスクを評価し、100点満点でスコアを付けます。このスコアを前月のデータと比較し、総合的な評価を行っています。**※2024年9月より評価方法を一部変更しており先月と数値がことなっております。**

スコアの読み方

トップ銘柄の仮想通貨は、このスコアが安定しており、**4点以上の大きな変動がある場合は、そのプロジェクトの健全性を再評価する指標**として使っていただければと考えています。

1月の時価総額TOP50銘柄の本スコア推移

上記の基準にて1月の調査を行ったところ、今月に入り**+4以上スコアが上昇**した銘柄、**-4以上のスコア**を落とした銘柄ともにありませんでした。

オンチェーン＆オフチェーン分析ガイド

Goodマークを付与したTOP銘柄について直近1カ月の、TVLやステーキング、Xフォロワー増減などの様々なデータから分析・考察した情報を提供しています。

Hedera : HBAR

直近1カ月間では、直近1カ月間でHBARは対BTC比で約5%上昇し、TVL(前月比+5.55%)やステーキング総額(前月比+7.10%)の増加が見られます。また、**Xフォロワー数(前月比+7.27%)や公式サイトへのアクセス数も伸びており、投資家やコミュニティの関心が高まっている**ことが分かります。さらに、ネットワーク上で取引されるステーブルコインの数量も大幅に増加しており、DeFiやRWA（実世界資産）分野での活用が進む環境が整いつつあります。これらの要素は、HBARのエコシステム成長と実需の拡大を示唆しています。

Solana : SOL

SOLは直近1カ月で対BTC比16.01%上昇し、トークン価格(前月比+23.11%)TVL(前月比+26.63%)・ステーキング総額(前月比+21.31%)も同様に成長。**直近7日間ではTVLに対するステーブルコインの割合が10%以上増加**しています。短期的には投資家の慎重姿勢を示す可能性があるものの、長期的にはSolanaのDeFi拡大と流動性向上のポジティブ要因と評価できます。さらに、TRUMPミームコインの流行により、新規ユーザーの資金がステーブルコインへ流入し、トレード準備金や利確後の資産としてSolana上で活用されている可能性が高く、エコシステムの成長を後押ししていると考えられます。

1月週次レポート掲載 中堅銘柄 継続分析ガイド

『狙い目：中堅銘柄』 発掘ガイド 1/31

本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）の時価総額ランキング50～400位に位置する『狙い目：中堅銘柄』に焦点をあてた情報を提供するものです。週次レポートに記載いたしましたCMCサイト内、検索トレンド中堅銘柄に関する月末時点での経過調査となります。

週次 検索トレンドの経過調査一覧

作成日1/31

配信日時	CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	直近1カ月の トークン価格上昇率
1/10	#61→#71	 Fantom	platform	▼35.29%
1/10	#118→#188	 Bio Protocol	DeSci	▼70.31%
1/10	#240→#573	 Swarms	AI Agent	▼60.77%
1/17	#71→#121	 ai16z	AI Agent	▼61.73%
1/17	#115→#157	 aixbt by Virtuals	AI Agent	▼26.47%
1/17	#209→#264	 GRIFFAIN	AI Agent	▼41.55%
1/24	#54→#51	 Raydium	DEX	▲53.31%
1/24	#91→#121	 ai16z	AI Agent	▼61.73%
1/24	#278→#304	 ChainGPT	AI & Big Data	▼0.87%

上記『狙い目：中堅銘柄』に関する最新のトークン価格への影響が予想される話題についての調査結果をPick Up!!

ai16z：AI16Z

注目ポイント：1/29 リブランディングを発表

ElizaOSへのリブランディングは、Andreessen Horowitz (a16z) との混同リスクを解消し、プロジェクトの信頼性を高める重要な転機となるとのこと。旧称「AI16Z」は短期間で大きく成長したが、名称の紛らわしさが大手との協業や法的リスクの懸念を生んでいた。新ブランド「ElizaOS」として再スタートを切ることで、より幅広い企業や開発者との連携が期待され、エコシステムを拡充しやすくなることを見込んでいるそうです。また、今後の“Eliza v2”へのアップグレードを通じて技術力を強化し、市場における影響力を高めることが期待されています。

Raydium：RAY



注目ポイント：Orderlyとの統合発表とオンチェーンデータにおける信用の裏付けに期待

Solana上のDeFiは他チェーンを上回るアクティブユーザーを獲得し、エコシステム全体への資金流入やトークン価格上昇が期待されます。特にRaydiumはUniswap比5.5倍の月間アクティブユーザー数を誇り、1/8 Orderlyとの協業によって取引高も急増中です。30日間で1000億ドル超を誇るRaydiumと、日次5億ドル規模に迫るOrderlyの連携により、ペーペチュアル取引や多彩な機能が投資家心理を刺激しています。DeFi市場は競争が激しいため、Uniswapなど他チェーンの巻き返しリスクはあるものの、利用者拡大や流動性向上が続けばRAYやSOLの価格上昇が見込まれます。

有名VCによる 資金調達最新情報分析

『大穴：新規銘柄』 発掘ガイド 1/31

2025年1月1日～1月31日までの期間において、仮想通貨業界における大手ベンチャーキャピタル (VC) の出資実績を詳細に調査し、大穴：新規銘柄を分析します。

今月の主な業界の資金調達プロジェクト数は56社となり、大手VCからの出資を受けたプロジェクトは14社となります。下記は、大手VCから出資を受けた銘柄の中でTSUDOIスタッフが注目する3つのプロジェクトとなります。

※大手VCについては投資資金の大きいTOP20を対象としております。

プロジェクト名	カテゴリー	調達ラウンド	金額	大手VC一覧	融資日	注目度 (3点満点中の評価)
 Privasea	Infrastructure	シリーズA	--	GSR Amber Group Binance Labs etc...	2025年 1/10	事業モデル ★★(2.0) メンバー ★★(2.0)
 Merit Systems	Infrastructure	シードラウンド	\$10.00M	a16zcrypto Blockchain Capital etc...	2025年 1/17	事業モデル ★★☆(2.5) メンバー ★★★★★(3.0)
 Hyve DA	DeFi	プレシード	\$2.75M	Framework VenturesVOLTCapital Builder Capital etc...	2025年 1/17	事業モデル ★★☆(2.5) メンバー ★☆(1.5)

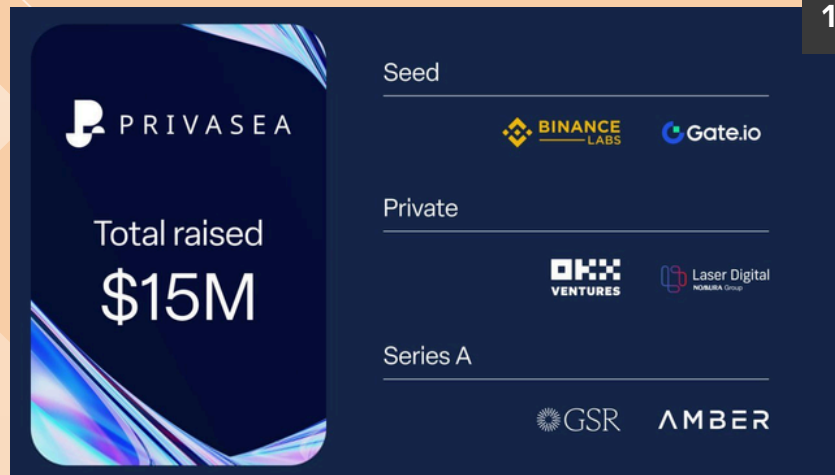
1月の資金調達事情について

今月のブロックチェーン業界では、資金調達総額が執筆現在、6億1,738万ドル（約961億円）を記録。12月の約12億4千万ドル（約1,950億円）と比較すると金額は控えめとなります。**1月の企業活動はやや鈍化している様子がうかがえます。**現在、投資比率が最も高いのはインフラストラクチャー（34.4%）で、次いでDeFi（29.7%）、Others（17.2%）、Web3（10.9%）、CeFi（7.8%）と続きます。**インフラストラクチャーとDeFiは依然として中核を担い、効率化や基盤技術の発展を重視する動き**が盛んです。先月と比べ全体の金額こそ落ち着いた印象ですが、主要分野には継続的な投資が行われており、持続可能な成長を目指す傾向に大きな変化は見られません。

Privasea

分野：Infrastructure

◆ トークン未発行



01. 概要 暗号化でつなぐAIネットワーク『Privasea』

Privaseaは、AIとデータプライバシーの課題に対応する分散型ネットワークです。最大の特徴は「FHEML (Fully Homomorphic Encryption Machine Learning)」技術を活用し、データを暗号化したまま安全にAIの学習や処理を行える点です。これにより、企業や個人はプライバシーを守りながらデータの価値を循環させることが可能です。AI技術の進化とともに、セキュリティと効率性を両立する革新的な仕組みを提供しています。初心者でも安心して利用できる安全なAIネットワークとして注目されています。

02. 運営メンバー

Founder兼CEOのDavid Jiao氏

CEOのDavid Jiao氏は、スウェーデン・ヨーテボリを拠点に活動する技術者兼起業家としてPrivaseaを創設しFHE技術によるAIおよびデータプライバシーソリューションを提供するほか、NuLink NetworkのCEOとして分散型アプリケーション向けプライバシー保護技術を推進、Golden Ridge Robotic ABを共同創業して自動運転技術の開発やBaiduとの戦略的パートナーシップを構築し、さらにVolvoやCybercom Groupでシステム設計やソフトウェア開発の経験を積んだ人物です。

リサーチ担当のコメント

事業モデル ★★(2.0)

AIとブロックチェーンの融合により、データプライバシー技術の需要が急速に高まっています。しかし、現状では研究開発段階が強く、実運用の事例が少ないため、信頼性を確立するには時間と資金が必要となります。さらに、暗号技術の複雑さや規制との整合性も課題となり、導入障壁は高い側面もあります。

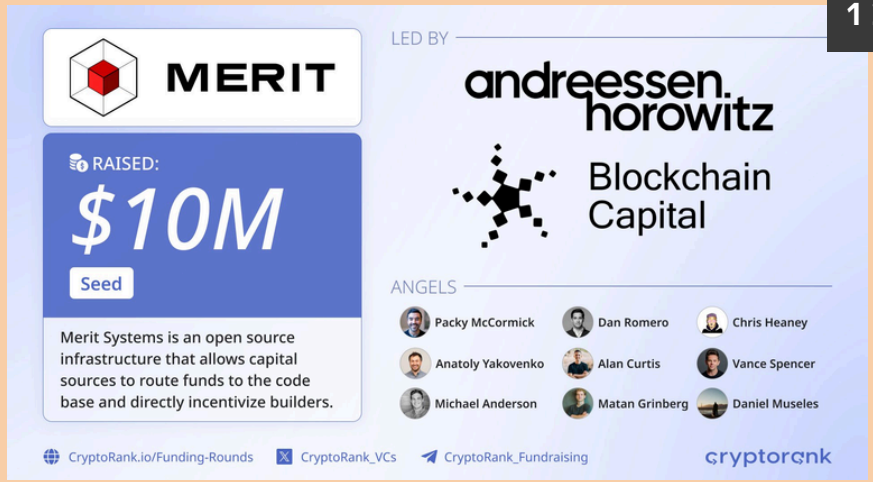
メンバー ★★(2.0)

David Jiao氏は、NuLink NetworkのCEOやGolden Ridge Robotic ABの共同創業を経験し、Baiduとの提携実績もあります。暗号化技術とAIに精通し、PrivaseaのFHEML技術の発展を牽引すると期待されています。一方で、大規模投資の取り込みや経済圏の構築は未知数で、今後のメンバーやパートナーの拡充が鍵となるでしょう。

Merit Systems

分野：Infrastructure

◆トークン未発行



LED BY

MERIT

RAISED: **\$10M**

Seed

Merit Systems is an open source infrastructure that allows capital sources to route funds to the code base and directly incentivize builders.

andreesen.horowitz

Blockchain Capital

ANGELS

 Packer McCormick
  Dan Romero
  Chris Heaney

 Anatoly Yakovenko
  Alan Curtis
  Vance Spencer

 Michael Anderson
  Matan Grinberg
  Daniel Museles

[Cryptorank.io/Funding-Rounds](https://cryptorank.io/Funding-Rounds)
[Cryptorank_VCs](https://cryptorank.io/VCs)
[Cryptorank_Fundraising](https://cryptorank.io/Fundraising)
[cryptorank](https://cryptorank.io)

01. 概要 公平な報酬の実現を目指す『Merit System』



Merit Systemsは、オープンソースの経済インフラであり、資本の供給元が資金をコードベースに直接流し、開発者に対してインセンティブを与える仕組みを提供します。

従来の企業組織では、資源の配分が複数の管理層を通じて行われるのに対し、Merit Systemsでは分散型のエコシステムの中でプログラマ的に資本が配分されます。この仕組みにより、長期的には能力（Merit）に基づいた明確なインセンティブが生まれ、優秀な開発者が自身の裁量と影響力を最大化できるプロジェクトに自然と集まるようになります。

02. 運営メンバー

Founder兼CEO：Sam Ragsdale氏、Founder兼CTO：Ryan Sproule氏

Sam Ragsdale氏とRyan Sproule氏は、Merit Systemsの共同創設者で、それぞれCEOとCTOを務めています。Ragsdale氏はGoogleで広告技術のバックエンドを開発し、数百万の広告主と数十億のユーザーを支えるインフラを構築。一方、Sproule氏はBlockchain Capitalでリサーチエンジニアとしてブロックチェーン企業への投資と技術支援を行い、AWSではソフトウェアエンジニアとしてクラウドソリューションの開発に携わりました。両者ともクラウドとブロックチェーン技術で豊富な経験を持ちます。

リサーチ担当のコメント

事業モデル ★★(2.0)

Merit Systemsのようなオープンソース 経済インフラを通じて開発者へ直接資本を流しインセンティブを付与する仕組みは、DAOなど自律分散型組織の潮流と相まって注目を集め始めており、能力に応じた透明な報酬が期待される一方、分散的な資源配分や 規制対応の課題が多く、有力な成功例が限られるため導入障壁は依然として高く、投資家や開発者のコミットを継続的に得てモデルの信頼性を高めるにはさらなる時間と実績が必要となる。

メンバー ★★★(3.0)

Sam Ragsdale氏は GoogleとAWSでの大規模インフラ開発を手がけ、Ryan Sproule氏はBlockchain Capitalで投資・技術支援の経験を有しています。両名ともクラウドとブロックチェーンに通じ、高度な実装力が期待できるでしょう。また、Solanaのファウンダーや、Coinbaseの元副社長などの有識者もエンジェル投資家として出資をしている点も好材料です。

Hyve DA

分野：DeFi

◆トークン未発行

HYVE LABS

LED BY

Framework

PARTICIPATION FROM

BUILDER CAPITAL

32-BIT

Volt Capital

RAISED: \$2.75M

Pre-Seed

Hyve is a gaming ecosystem that leverages blockchain technology to transform social gaming into a dynamic and immersive experience.

CryptoRank.io/Funding-Rounds CryptoRank_VCs CryptoRank_Fundraising cryptorank

01. 概要 1GB/sの可能性を提供『Hyve DA』

Hyve DAは、ブロックチェーンのデータを安全かつ効率的に管理・提供する仕組みを提供するプロジェクトです。特に、大量のデータを扱う分散型アプリ（dApps）やレイヤー2ソリューションに対応するため設計されています。1秒未満で情報を処理する高速性や、1GB/sのデータ転送能力を備え、これにより分散型ネットワークのパフォーマンスを大幅に向上させます。安全性、スケーラビリティ、コスト効率を重視し、次世代ブロックチェーンエコシステムの基盤を築くことを目指しています。

02. 運営メンバー

Co-Founder兼CEOのDouwe Faassen氏

Douwe Faassen氏は、Hyve DAのCo-Founder兼CEOを務める起業家で、データと知識の民主化を目指しています。2022年にHyve DAを設立し、ブロックチェーンにおけるデータ可用性の革新をリードしています。それ以前は、フリーランスのブロックチェーン開発者として活動し、RustやReact.jsを活用したプロジェクトに携わり、Blue Star Planningではフロントエンド開発者として、ユーザーフレンドリーなインターフェースの設計とReact.jsを活用したアプリケーション開発を手掛けました。

リサーチ担当のコメント

事業モデル ★★☆☆(2.5)

Hyve DAの事業モデルはデータ可用性を強化し、レイヤー2やRollupの拡大する需要を満たす有力なソリューションです。一方で、既存チェーンや他プロトコルとの連携や互換性を高めるには、十分な検証と導入実績を積み重ねることが不可欠です。コミュニティの支援とプロトコルの標準化、規制面への対応を進め、包括的エコシステムの形成を目指す必要があります。

メンバー ★☆☆(1.5)

Douwe Faassen氏はブロックチェーン開発やフロントエンド設計などで実績を積み、データ可用性と高速処理を両立するHyve DAをリード。Rust活用による高速化やセキュリティ強化が期待され、今後の資金調達と技術連携により1GB/sの性能を活かしたエコシステム構築が見込まれます。大規模dAppsへの応用にも注目が集まっています。

1月週次レポート掲載 新規銘柄 継続分析ガイド

『大穴：新規銘柄』発掘ガイド 1/31

2025年1月1日から1月31日までの期間において、CMCで新規リストされ、時価総額ランク50位以下の『大穴：新規銘柄』の月末時点での経過調査となります。

CMC新規リスト銘柄

配信日時	CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格 (掲載~1/31比較)
1/10	#217→#109	 DeepBook Protocol 	DEX	¥120,388,553,954	¥43.29 ▲80.14%
1/17	#1341→#1342	 Arcana Network 	modular-blockchain	¥980,199,964	¥2.60 ▼15.03%
1/24	#420→#478	 Solv Protocol	BTCfi	¥12,977,013,940	¥8.75 ▼23.91%

DeepBook Protocol：DEEP

注目ポイント：SUIエコシステム加速によるDeepBookの成長性

DeepBookはスケーラブルなセントラルリミットオーダーブック（CLOB）として機能し、豊富な流動性を集約することで透明性の高い取引環境を提供しています。Suiエコシステムの基盤インフラとして、重要な役割を担いつつあると言えるでしょう。また、SUIブロックチェーンでは近く SMSを利用したオフライン取引が可能になる見込みです。さらに PhantomウォレットがSuiチェーンに対応し、送金・スワップがより簡単に行えるようになりました。これらはSUI経済圏の拡大を後押しする好材料と言えます。

ArcanaNetwork : XAR

注目ポイント：RenzoProtocol連動がDeFiの参加ハードルを大幅に引き下げる

Arcana NetworkのChain Abstraction ProtocolがRenzoProtocolに導入されたことで、クロスチェーン流動性の運用効率が大幅に向上します。従来は複数チェーンでの資産移動にブリッジやスワップを要しましたが、この連携によりワンクリックで不足分の流動性を自動的に補填し、リスレーキングや取引を素早く完了できるようになりました。複雑な操作や追加コストが削減されるため、投資家の利便性が高まるだけでなく、DeFiの参加ハードルも下がると期待されます。

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>
- TokenInsight : <https://tokeninsight.com/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。

レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>